



あたらしくはいった本 令和8年6月 貸出開始資料から

●**小説・エッセイなどの文学** 野球が好きすぎて 2021-2025 (東川篤哉/著) 文豪てくてく散歩(進士素丸/著) 掌より愛をこめて(阿刀田高/著) ビューティフルワースト(川瀬七緒/著) 氷河期のゴミ(榎木理宇/著) 横浜共同租界(佐々木譲/著) 江崎クリーニング店の娘(鈴木るりか/著) テロル(月村了衛/著) 雨が降ったら(寺地はるな/著) こうやって作家は言葉を紡ぐ(小川哲/著) ジュビリー(アリス・マンロー/著) もし血が流れれば(スティーヴン・キング/著)

●**その他の本** お酢推すレシピ(岩間明子/著) 建築トリック謎解きガイド(安井俊夫/著) 読書スタディーズ(桜井政成/著) 健康長寿解剖図鑑(島影真奈美/著) 季節を味わうわたしの保存食(若山曜子/著) はじめての熱帯果樹(三輪正幸/著) 山の天気入門(猪熊隆之/著) 水の世界史(ジュリオ・ボカレッティ/著) 思考のストレッチ(田村正資/著)



『野球が好きすぎて
2021 - 2025』
東川篤哉/著
(実業之日本社)



『文豪てくてく散歩』
進士素丸/著
(KADOKAWA)



『お酢推すレシピ』
岩間明子/著
(主婦の友社)

8月 としょかんカレンダー



日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

○印の日は、
お休みです。

こうした事態と入れ違うように、海を渡って交易に携わる商人たち、すなわち海商が登場してきます。9世紀前半のことです。記録のうえでは当初は新羅商人、のちに唐商人とみえますが、日本が新羅商人の排除に動くこともあってその自称を変えた可能性があり、両者に大きな差

です。こうした事態と入れ違うように、海を渡って交易に携わる商人たち、すなわち海商が登場してきます。9世紀前半のことです。記録のうえでは当初は新羅商人、のちに唐商人とみえますが、日本が新羅商人の排除に動くこともあってその自称を変えた可能性があり、両者に大きな差

しかしこの使節外交にも変化がおります。朝鮮半島の新羅との外交では、日本への新羅使派遣は奈良時代末が最後です。日本からの遣新羅使も同時期が最後となります。ただ、これらの事実は結果論でしかありません。その時期の歴史的経緯を跡づけると、最終的に新羅との国家間の通交が全く期待できなくなるのは平安初期の承和年間(834〜847)と考えられます。一方、中国への遣唐使も寛平6年(894)の菅原道真の進言によって派遣が沙汰止みとなり、自然消滅してしまうのです。

奈良・平安時代初期における日本の対外関係は外交使節の往来がその主流でした。その中で、大宰府は本年4月号で紹介したように、律令に定められた蕃客・帰化・饗識という規定に基づいてその対外的な役割を果たしていました。

大宰府の対外的機能(2)
『海商の登場』
ページID: 7241

異はなかったとも考えられています。ここで東アジア世界に目を転じると、十世紀は激動の時代と呼ばれています。その最大の要因は、東アジア世界に大きな影響力を及ぼし続いていた唐帝国が907年に滅亡したことです。その後、中国大陸は五代十国という分裂の時代に入ります。これに連動するように朝鮮半島でも、統一新羅の弱体化とともに、9世紀末〜10世紀初頭に後百濟、後高句麗の建国があり、やはり後三国時代と呼ばれる分裂の時期を迎えます。日本においても、天慶の乱(平将門の乱・藤原純友の乱)が勃発、従来の律令国家による支配体制に大きな打撃を与え、武士階級の誕生を促しました。また摂関政治が常態化して、新たな国家体制が出現することにもなりました。

このような唐の滅亡に端を発する10世紀の激動を東アジア世界の画期として捉える見方がありました。一方で東アジアの対外関係を考えると、唐の滅亡よりもむしろ先に述べた海商の登場を重視すべきとの見方が提示されており、私もこれに賛成です。それではこの海商の登場によって大宰府の対外的機能はどのような変化していったのでしょうか。次回(12月号掲載予定)はこのことについて述べたいと思います。

異はなかったとも考えられています。ここで東アジア世界に目を転じると、十世紀は激動の時代と呼ばれています。その最大の要因は、東アジア世界に大きな影響力を及ぼし続いていた唐帝国が907年に滅亡したことです。その後、中国大陸は五代十国という分裂の時代に入ります。これに連動するように朝鮮半島でも、統一新羅の弱体化とともに、9世紀末〜10世紀初頭に後百濟、後高句麗の建国があり、やはり後三国時代と呼ばれる分裂の時期を迎えます。日本においても、天慶の乱(平将門の乱・藤原純友の乱)が勃発、従来の律令国家による支配体制に大きな打撃を与え、武士階級の誕生を促しました。また摂関政治が常態化して、新たな国家体制が出現することにもなりました。

異はなかったとも考えられています。ここで東アジア世界に目を転じると、十世紀は激動の時代と呼ばれています。その最大の要因は、東アジア世界に大きな影響力を及ぼし続いていた唐帝国が907年に滅亡したことです。その後、中国大陸は五代十国という分裂の時代に入ります。これに連動するように朝鮮半島でも、統一新羅の弱体化とともに、9世紀末〜10世紀初頭に後百濟、後高句麗の建国があり、やはり後三国時代と呼ばれる分裂の時期を迎えます。日本においても、天慶の乱(平将門の乱・藤原純友の乱)が勃発、従来の律令国家による支配体制に大きな打撃を与え、武士階級の誕生を促しました。また摂関政治が常態化して、新たな国家体制が出現することにもなりました。

異はなかったとも考えられています。ここで東アジア世界に目を転じると、十世紀は激動の時代と呼ばれています。その最大の要因は、東アジア世界に大きな影響力を及ぼし続いていた唐帝国が907年に滅亡したことです。その後、中国大陸は五代十国という分裂の時代に入ります。これに連動するように朝鮮半島でも、統一新羅の弱体化とともに、9世紀末〜10世紀初頭に後百濟、後高句麗の建国があり、やはり後三国時代と呼ばれる分裂の時期を迎えます。日本においても、天慶の乱(平将門の乱・藤原純友の乱)が勃発、従来の律令国家による支配体制に大きな打撃を与え、武士階級の誕生を促しました。また摂関政治が常態化して、新たな国家体制が出現することにもなりました。